

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏GDP(2020年4-6月期) —スペインの落ち込みが特に深刻

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

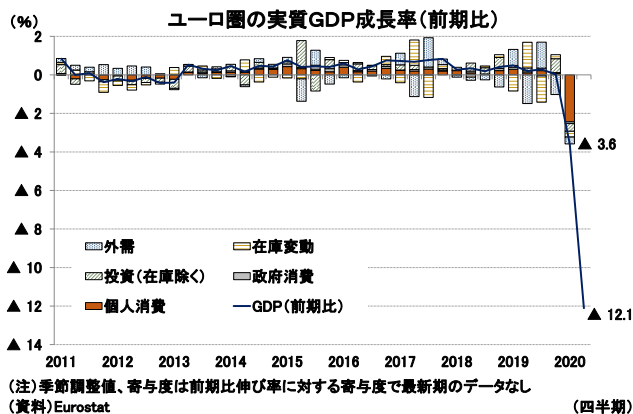
1. 結果の概要:前期比2桁の悪化、統計開始以来で最悪

7月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏GDPの一次速報値(Preliminary Flash Estimate)を公表し、結果は以下の通りとなった。

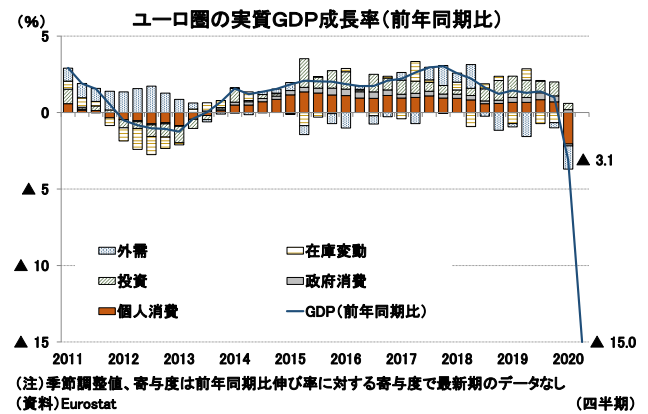
【ユーロ圏19か国GDP(2020年4-6月期、季節調整値)】

- ・前期比は▲12.1%、市場予想¹(▲12.1)と同じ、前期(▲3.6%)から悪化した(図表1)
- ・前年同月比は▲15.0%、市場予想(▲14.5%)より下振れ、前期(▲3.1%)から悪化した(図表2)

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:スペイン、フランス、イタリアの順に落ち込みが大きい

4-6月期の成長率は、新型コロナの影響が顕在化してきた1-3月期からさらに悪化し、前期比▲12.1%(年率換算▲40.3%)、前年同期比▲15.0%と統計開始(1995年)以降で最も悪化した。

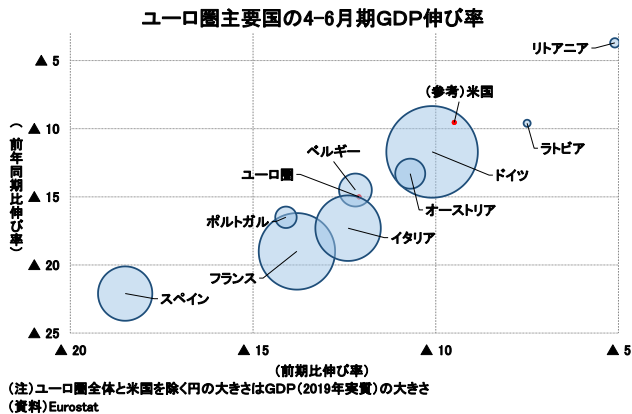
欧州委員会統計局が公表した各国の伸び率のうち、経済規模の大きい4か国を見ると、前期比ではドイツ▲10.1%、フランス▲13.8%、イタリア▲12.4%、スペイン▲18.5%といずれも2桁を超える急落となった(図表3)。

なお、コロナ禍の影響は1-3月期から顕在化していることから、落ち込んだ経済の水準を見るには1-3月期分の下落も加味される前年同期比の伸び率が参考になる。前年同月比で見るとドイツ▲11.7%、フランス▲19.0%、イタリア▲17.3%、スペイン▲22.1%となり、スペイン経済は2割以

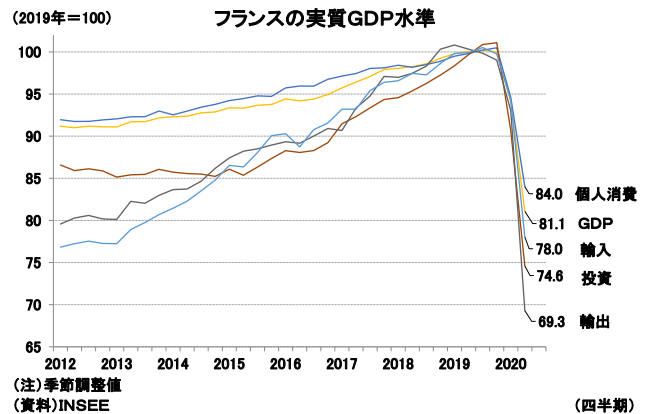
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想も同様。

上の経済活動が停止したことになり、深刻さが際立っている。なお、ユーロ域内において比較的落ち込みが軽微であったドイツ経済でも、米国を超える悪化幅となっている。

(図表 3)



(図表 4)

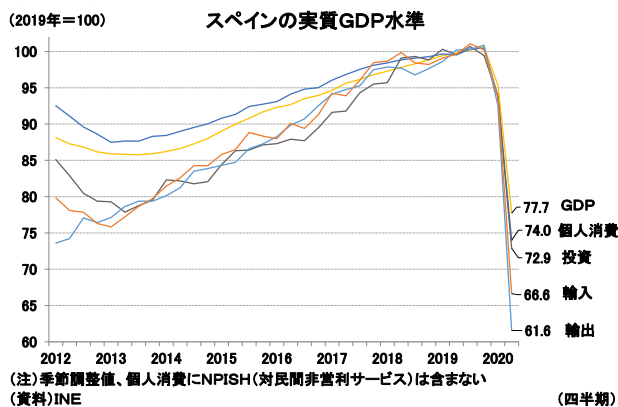


落ち込みが大きいフランスとスペインについて、各国統計局（フランス国立統計経済研究所（INSEE）、スペイン統計局（INE））が公表している成長率の内訳を見ていきたい。

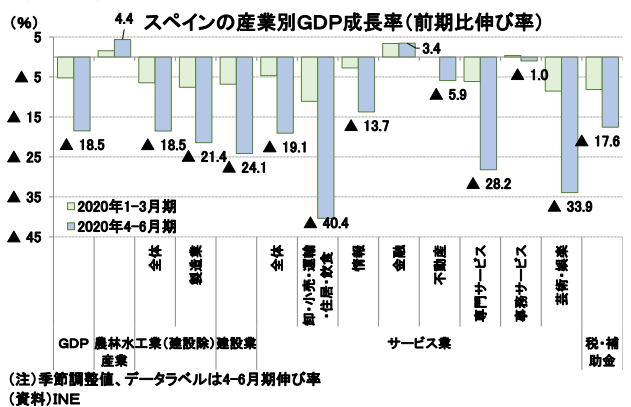
まず、フランスの成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費▲11.0%（前期▲5.8%）、政府消費▲8.0%（前期▲3.5%）、投資▲17.8%（前期▲10.3%）、輸出▲25.5%（前期▲6.1%）、輸入▲17.3%（前期▲5.5%）となり、軒並み1-3月期から急落している（図表 4）。

供給別には、生産業が前期比▲16.8%（前期：▲5.6%）、建設業が▲24.1%（前期：▲12.8%）、市場型サービス産業▲13.4%（前期▲5.0%）、非市場型サービス▲8.2%（前期：▲3.8%）とこちらも軒並み下落する結果となった。

(図表 5)



(図表 6)



次にスペインの成長率（前期比）を見ると、需要項目別には個人消費▲21.0%（前期▲6.6%）、政府消費+0.4%（前期+1.8%）、投資▲22.3%（前期▲5.7%）、輸出▲33.5%（前期▲8.2%）、輸入▲28.8%（前期▲6.6%）となり、政府消費を除き2割から3割強の落ち込みが見られる（図表 5）。

供給別には、農林水産業が前期比+4.4%（前期+1.6%）、工業が▲18.5%（前期▲6.5%）、建設業が▲24.1%（前期▲6.8%）、サービス業が▲19.1%（前期▲4.7%）となった。細かい業種を見ると、外出制限の影響を受けやすい卸・小売・運輸・住居・飲食サービスで、40%を超える悪化を記録したことが分かる（図表 6）。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。